

R-Talk 950 / R-Talk 900

ファームウェア Version2.01

拡張スピーカーの利用方法

第 1. 1 版 2020年7月16日

NTTテクノクロス株式会社

目次

1. 概要	3
2. 準備	4
3. スピーカー接続手順	5
(1) 拡張スピーカーと接続します	5
(2) スピーカー音量の調整を行います。	6
4. スピーカーの設置方法と注意点	7
5. お困りの場合には	9
(1) エコーが大きく返ると言われたら	9
(2) 自拠点の音が拡張スピーカーから聞こえる	9

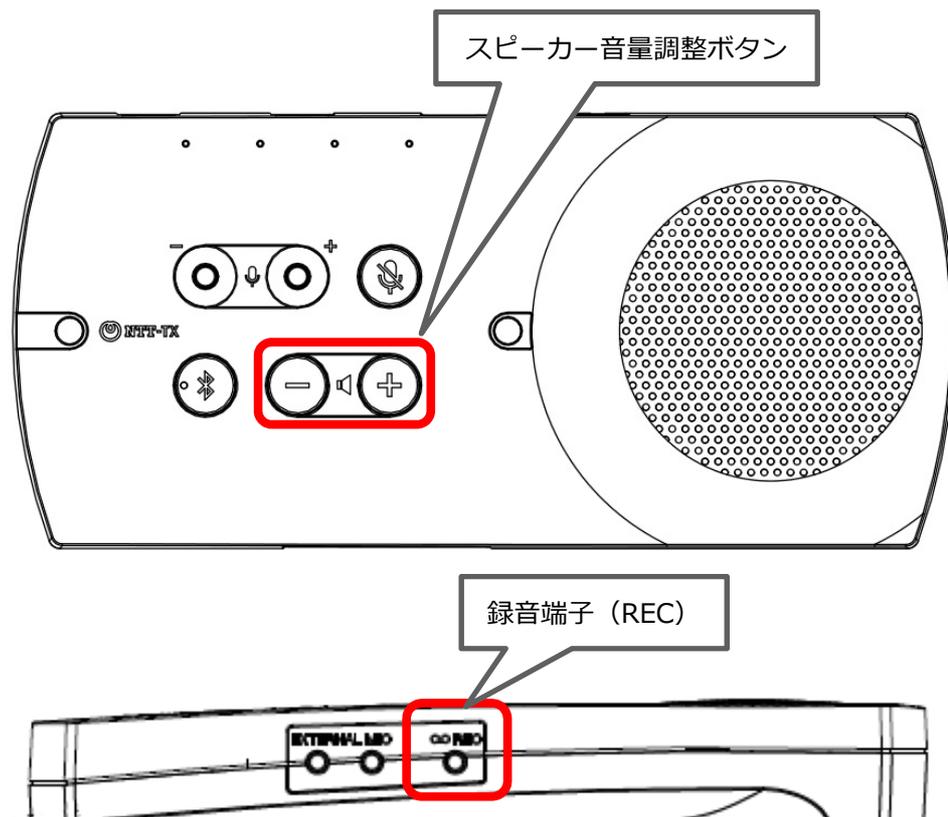
※ 本ドキュメントに記載されている会社名、製品名などの固有名詞は、一般に該当する会社もしくは組織の商標または登録商標です。

1. 概要

本紙は、ファームウェア「Version2.01」を適用した R-Talk 950 および R-Talk 900 の拡張スピーカーの利用方法について説明します。

本書の操作手順説明のイラストは、R-Talk 950 を例に記載しています。

本文中で使用する各部の名称を示します。



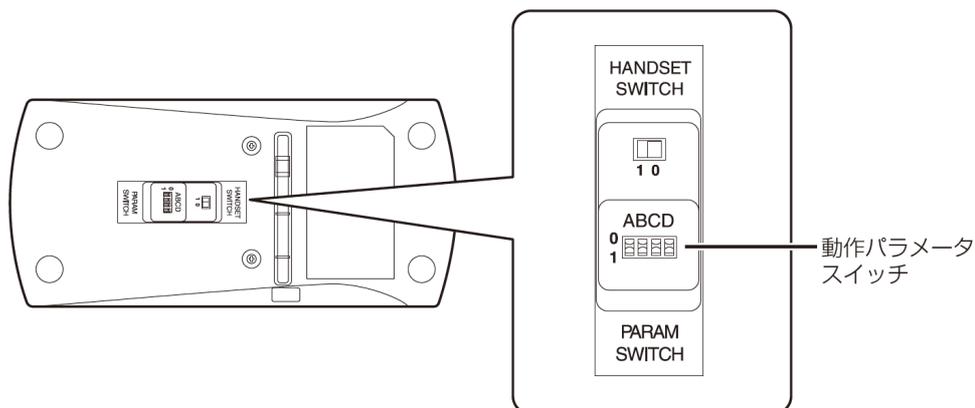
2. 準備

・用意するもの

下記の物品を用意して下さい。

物品	内容	備考
R-Talk 950 R-Talk 900	ファームウェアが Ver2.01 にアップデートされた本体	アップデートの方法は別紙「アップデート手順書」をご覧ください。
拡張スピーカー	推奨スピーカーは以下になります。 Roland 社 「MOBILE CUBE」	マイク入力に対応したスピーカーはご利用いただけますが、推奨スピーカー以外の動作については保証いたしかねます。
オーディオケーブル 及び変換プラグ	ステレオミニケーブル φ6.3 ヘッドホン変換プラグ	例) オーディオテクニカ社 : AT544A オーディオテクニカ社 : AT3C1S

・動作パラメータスイッチ「D」を拡張スピーカーモード「1」に変更します。



※ 動作パラメータスイッチ「D」について

動作パラメータスイッチ「D」は標準ファームウェアと拡張スピーカー対応版ファームウェアで動作が異なります。

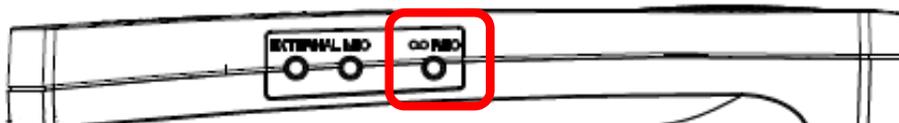
	【ファームウェア Ver2.01】	【ファームウェア Ver1.00、Ver1.11】
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 録音端子の出力切替スイッチ ・ 音声処理の切り替え 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC と USB 接続時のマイクボリューム制御切替スイッチ
D = 0 (出荷時)	録音端子 : 録音機器用出力 ※ 拡張スピーカーを接続しないときは必ず「0」に設定してください。	Windows7 以外のパソコン接続用の制御
D = 1	録音端子 : 拡張スピーカー用出力	Windows7 パソコン接続用の制御

3. スピーカー接続手順

(1) 拡張スピーカーと接続します

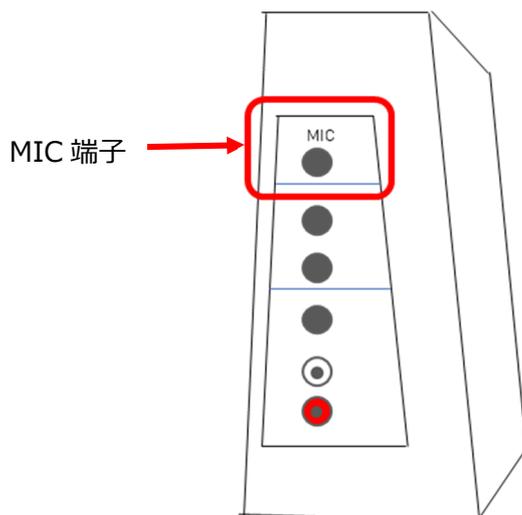
R-Talk 950 もしくは R-Talk 900（以下、R-Talk 本体とする）と拡張スピーカーをオーディオケーブルと変換プラグを使って接続します。R-Talk 本体と拡張スピーカーは電源を OFF にした状態で接続して下さい。

- ① R-Talk 本体の録音端子（REC）にオーディオケーブルを接続します。



- ② 拡張スピーカーの MIC 端子に変換プラグとオーディオケーブルを使って接続します。

Roland 社「MOBILE CUBE」のマイク端子はφ6.3mm ステレオ標準プラグとなっております。オーディオケーブルはφ3.5mm ステレオミニプラグとなっているため、ステレオミニプラグに変換プラグを指してφ6.3mm ステレオ標準プラグに変換して接続してください。



Roland「MOBILE CUBE」の MIC 端子位置

- ③ R-Talk 本体→拡張スピーカーの順に電源を入れます。電源を入れる際は、スピーカーなどの損傷を防ぐためにボリュームは小さめに設定してください。

※ 電源を落とす場合は、拡張スピーカー→R-Talk 本体の順に電源 OFF にしてください。

(2) スピーカー音量の調整を行います。

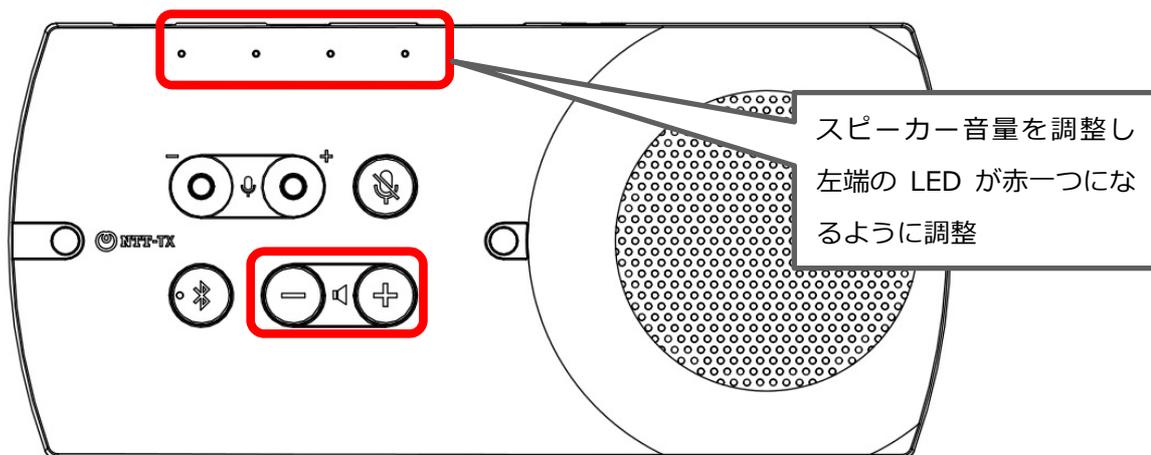
R-Talk 本体のスピーカー音量と拡張スピーカーの音量は連動していません。それぞれの音量を調整します。

① R-Talk 本体のスピーカー音量の調整

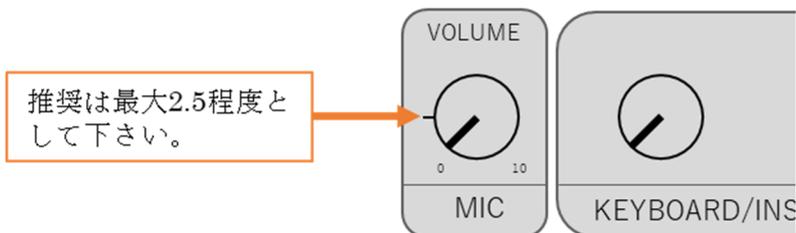
R-Talk 本体のスピーカー音量は、小さめに設定してください。

推奨設定はボリューム「3」(レベル表示が赤1つ)です。

R-Talk 本体のスピーカー音量を小さくすることで、エコーを発生しにくくする事が可能です。



② 拡張スピーカーの音量調整。



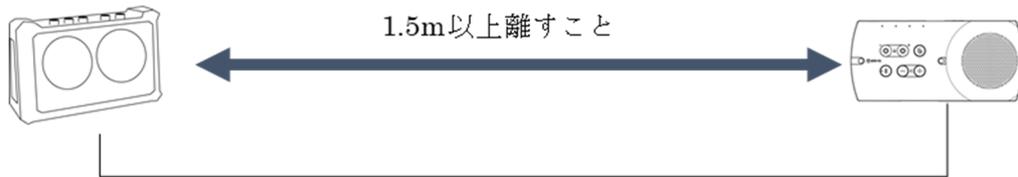
拡張スピーカーの音量を調整します。Roland「MOBILE CUBE」では、「MIC」のVOLUMEで調整します。

- ※ 拡張スピーカーの音量が大きすぎるとエコーの原因となります。
- ※ 拡張スピーカー側で音質の変更(例:低音域の増強など)を行うとエコーが戻りやすくなる場合があります。

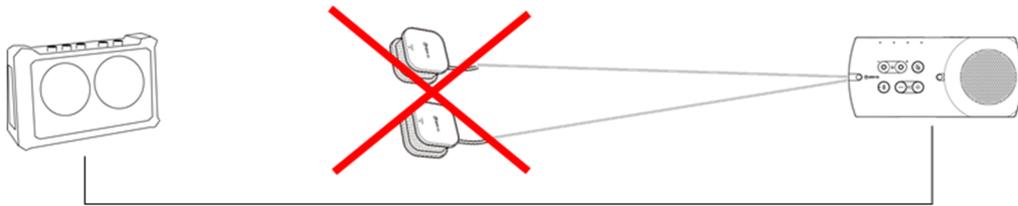
4. スピーカーの設置方法と注意点

R-Talk 本体とスピーカーの設置について説明します。

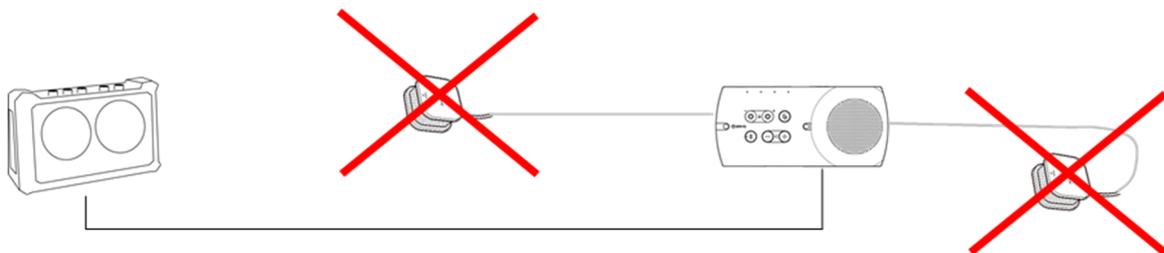
- ① R-Talk 本体と拡張スピーカーは 1.5m 以上離して設置してください。



- ② 拡張マイクを利用する場合は、R-Talk 本体と拡張スピーカーの間には置かないでください。



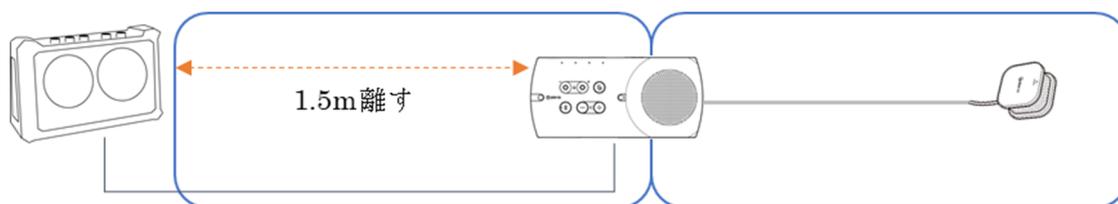
- ③ 拡張マイクを利用する場合は、R-Talk 本体及び拡張スピーカーに向けないでください。



④ 拡張マイク1つ利用の場合

R-Talk 本体と拡張スピーカーは 1.5m 程度離します。

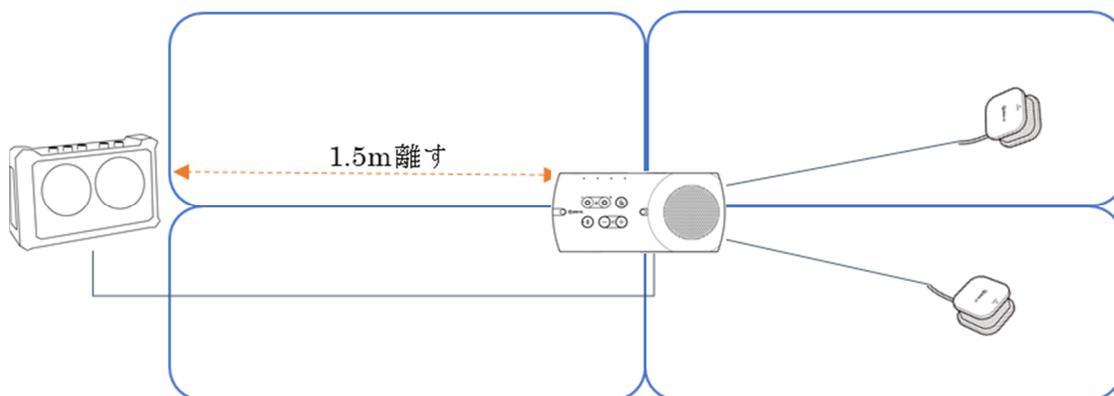
拡張マイクは拡張スピーカーと反対側に設置します（拡張スピーカーに向けないでください）。



⑤ 拡張マイク2つ利用の場合

R-Talk 本体と拡張スピーカーは 1.5m 程度離します。

拡張マイクは拡張スピーカーと反対側に設置します（拡張スピーカーに向けないでください）。



5. お困りの場合には

(1) エコーが大きく返ると言われたら

- ①動作パラメータスイッチ「D」が「1」になっていることを確認してください。
- ②R-Talk 本体のスピーカーの音量が「3」以上の場合は「3」以下に下げてください。
- ③拡張スピーカーの音量を下げてください。
- ④ファームウェアの更新に失敗している可能性があります。再度アップデートしてください。

(2) 自拠点の声が拡張スピーカーから聞こえる

- ①動作パラメータスイッチ「D」が「1」になっていることを確認してください。
- ②相手側のマイクをミュートして症状が改善する場合は、相手側からのエコーが原因です。相手側の環境を調整してください。
- ③ファームウェアの更新に失敗している可能性があります。再度アップデートしてください。

ご不明な点がございましたら、製品ホームページ「お問い合わせフォーム」よりお問い合わせください。

製品ホームページ：<https://www.ntt-tx.co.jp/products/r-talk/>